



# なばり

2020年（令和2年）7月25日発行

主な内容

- 5……市民活動を行う場合の新型コロナ感染対策
- 7……二次救急実施病院
- 8……「竹あかり親子ワークショップ」参加者募集

発行／名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉pr@city.nabari.mie.jp

平成30年7月豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町の当時のまちの様子  
(写真中央の小田川堤防が決壊、水が一気に住宅地に流入、冠水した)



平成30年7月豪雨土砂災害  
(広島県安芸郡坂町)

2～4ページに防災に関する重要なお知らせを掲載しています。必ず、ご覧ください。

P 2 自宅は安全？危険？「避難行動」をシミュレーション

P 3 避難の目安「警戒レベル」、避難・災害情報の収集先

P 4 非常持ち出し品をチェック、避難所でのコロナ対策

問 危機管理室(☎63-7271)

一人ひとりの「決断」が「命」を守る鍵となります。非常時に、冷静な判断ができるよう、今すぐ、情報収集や行動準備などの備えを始めてください。

7月3日以降、九州地方や岐阜県などで記録的な豪雨を観測した「令和2年7月豪雨」は、各地に河川の氾濫や浸水、土砂崩れなど、甚大な被害をもたらしました。

2年前の平成30年7月豪雨で多くの被害者が出た倉敷市真備町(上の写真)では、亡くなった人のうち37%が2階建て住宅の1階部分で死亡していたとのこと。避難行動を起こすタイミングが遅れたからかもしれませんが、もし、自宅の2階への「**垂直避難**※」ができていれば助かっていたかもしれません。

実は、人は災害などの危険が目の前に迫っても、「これくらいは大したことはない」と、日常生活の延長線上での出来事としてとらえる思考になってしまうと言われています。

非常時には、住民一人ひとりの「決断」と行動が、命を守る重要な鍵となります。冷静な判断、行動ができるよう、避難・災害情報などを自ら収集できるようにしておくこと、そして、今すぐ、ハザードマップで土砂災害や浸水のおそれがないかを確認し、避難行動のシミュレーションを始めてください。



名張市防災担当監 鶴長 肇生

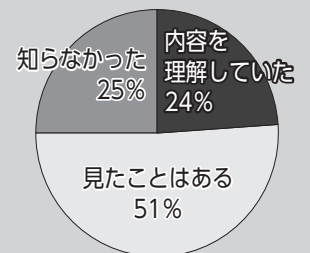
## 「逃げ遅れ」を出さないために。

頻発、激甚化する豪雨災害

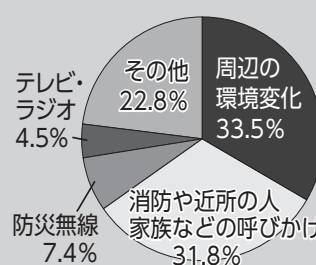
平成30年7月豪雨での被災者アンケート調査資料より※

**POINT** 「ハザードマップの存在」を知っていたのは75%。しかし、内容まで理解していたのは24%

被災した自治体の全てで、ハザードマップは公表され各戸配布されています。しかし、洪水浸水想定区域や土砂災害危険箇所の確認、家族間での避難場所や避難行動の話し合いなどに活用されていなかったことが被害を大きくしたと考えられます。



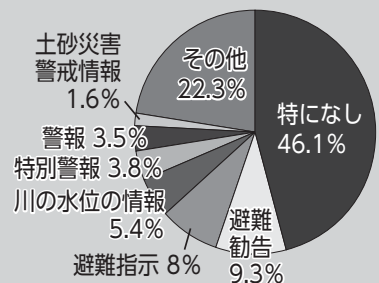
**POINT** 「避難したきっかけ」は、浸水や河川の氾濫など自分の身に危険が差し迫ってからが33.5%



浸水や河川の氾濫、土砂災害が発生するなど、自分の身に危険が差し迫るまで、避難を決断できていない人の割合が高いことが分かります。一方で、消防や近所の人などの「呼びかけ」をきっかけに避難した人が約3割存在しており、身近な人の「呼びかけ」の有効性が認められます。

**POINT** 「避難する際に参考にした情報」は半数近くが「特になし」で関心なし

実際の避難にあたって、水害・土砂災害などの危険情報を参考にした人は少ないことが分かります。日頃から、ハザードマップなどで、水害や土砂災害の危険リスクを把握しておく必要があります。



※垂直避難…浸水や河川の氾濫の危険性が高まっている場合に、屋内の2階以上の安全を確保できる高さに避難すること

※出展：平成30年12月中央防災会議 防災対策実行会議資料「平成30年7月豪雨における課題・実態」